

組長率いる十三人の精鋭たちが

再び東松山に見参!

双雲



紅組

2025年 5月25日(日) 15:00 開演 (14:00 開場)

東松山市民文化センターホール

S席 5,500円 A席 5,000円 高校生以下 3,000円

(全席指定・税込)※未就学児入場不可 ※高校生以下チケットは、公演当日入場時に、学生証をご提示いただきます。

【チケット発売】

一般発売 2025年2月22日(土)

メンバーズ先行 2025年2月19日(水)～21日(金)

※発売初日のみ 窓口 10:00～/電話・WEB 13:00～

※発売初日は8:30～整理券を配布します。

※メンバーズ先行発売期間及び一般発売初日はお一人様6枚まで

※メンバーズ先行発売は、窓口・電話のみ



WEBでもチケット購入可能!

【チケット取扱・お問合せ】

東松山市民文化センター

〒355-0024 埼玉県東松山市六軒町5-2

FAX. 0493-24-2012 ※受付時間 8:30～17:15 (臨時休館日を除く)

TEL. 0493-24-2011

～演奏曲目～

芥川也寸志：弦楽のための三楽章

グリーグ：ホルベルク組曲

ラヴェル(松岡あさひ編曲)：亡き王女のためのパヴァーヌ

E.バーンスタイン(近藤和明編曲)：荒野の七人

チャップリン(松岡あさひ編曲)：スマイル

レッド・ツェッペリン(近藤和明編曲)：移民の歌

レッド・ツェッペリン(近藤和明編曲)：カシミール

ディープ・パープル(近藤和明編曲)：紫の炎

※曲目・曲順は変更となる場合がございます。



組員紹介



石田 泰尚 (ソロ・ヴァイオリン)

Yasunao Ishida

神奈川県出身。国立音楽大学を首席で卒業、同時に矢田部賞受賞。新星日本交響楽団コンサートマスターを経て、2001年神奈川県フィルハーモニー管弦楽団ソロ・コンサートマスターに就任。以来「神奈川県フィルの顔」となり現在は首席ソロ・コンサートマスターとしてその重責を担っている。これまでに神奈川県文化賞未来賞、横浜文化賞文化・芸術奨励賞を受賞。結成時から30年参加するYAMATO String Quartet、自身がプロデュースした弦楽アンサンブル「石田組」など様々なユニットでも独特の輝きを見せる。2018年には石田組がNHK-FM「ベストオブクラシック」およびBSプレミアム「クラシック倶楽部」で放送されその熱いステージの様子は大きな反響を呼び、2019年にはEテレ「ららら」クラシックで特集が組まれた。2020年4月より京都市交響楽団特別客演コンサートマスターを兼任。2022年に初の著書となる「音楽家である前に、人間であれ!」を刊行。ミュンヘン・ザルツブルグ・シムフォニーホールにて無伴奏から協奏曲まで様々な編成で演奏する「石田泰尚スペシャル 熱狂の夜」を2022年、及び2024年に開催。2024年には石田組でNHK「あさイチ」に出演、日本武道館公演を行い8,000人以上を動員し大きな話題となった。最新アルバムは2024年4月にリリースされた『石田組 結成10周年記念 2024・春』。2025年4月より横浜みなとみらいホール「プロデューサー in レジデンス」第3代プロデューサーに就任。使用楽器は 1690 年製 G.Tononi、1726 年製 M.Goffriller。



佐久間 聡一
(1st ヴァイオリン)
Soichi Sakuma

山形県出身。4才よりヴァイオリンを始め桐朋学園大学へ進む。桐朋学園在学中より新日本フィルハーモニー交響楽団の契約団員を務め、その後、大阪フィルハーモニー交響楽団の2ndヴァイオリン首席奏者となる。2012年3月、大阪フィル退団後にドイツへ渡りハノーファーにてUlrich Schneider教授の下で研鑽を積み、ドイツ・カンマー・フィルハーモニー・プレーメンに客演。帰国後は広島交響楽団の第1コンサートマスターを務めた。現在は、ソリスト、室内楽奏者として多彩な活動で活躍の幅を広げている。「第21弦楽四重奏団」「弦楽トリオAXIS」「ピアノトリオMIYABI」「石田組」メンバー、洗足学園音楽大学非常勤講師。近年はYouTubeチャンネル「佐久間聡一のヴァイオリン酒場 サロンフリッツ」においてヴァイオリンの演奏法や巨匠モノマネを公開中。



萩谷 金太郎
(ヴァイオリン)
Kintarou Hagiya

東京都出身。東京音楽大学卒業。桐朋学園大学院大学を修了。ヴァイオリンを藤原浜雄に、ヴィオラを百武由紀に、室内楽を上田晴子、岩崎洗の各氏に師事。PMF2011、カザルス国際音楽祭、アフィニス夏の音楽祭などに参加。京都市交響楽団契約奏員、NHK交響楽団アカデミーを経て、2017年より東京都交響楽団に所属。オーケストラの他、スタジオレコーディングやライブサポート、作曲など、多岐に渡って活動。



森本 安弘
(1st ヴァイオリン)
Yasuhiro Morimoto

栃木県宇都宮出身。1月11日生まれ。3歳よりヴァイオリンを始める。宇都宮短期大学附属高等学校卒業。東京音楽大学卒業。大学在学中、ボルトガル音楽祭、ヨーロッパ遠征オーケストラに参加。室内楽をパノハ四重奏団に師事。生まれ持った強運により、在学中よりプロとしてスタジオワークを始め、これまでに様々なアーティストのライブツアーやレコーディング、CMや映画、ドラマなどのレコーディング等多岐に渡り活動を始め。ヴァイオリンを青柳敬子、沼田園子、景山誠治、室内楽を井上将興、堀了介、免東俊之、藤原浜雄、百武由紀各氏に師事。



長石 篤志
(ヴァイオリン)
Atsushi Nagashi

大分県出身。4歳よりヴァイオリンを始める。第24回及び第27回大分県音楽コンクールで第1位を受賞。福岡教育大学芸術コース卒業、同大学院卒業。フィンランドへの留学を機にヴィオラへ転向。フィエーゾ音楽院にてアントネッロ・ファルツリに師事する。帰国後は東京に拠点を移し、東京フィル・群馬交響楽団・仙台フィル・日本センチュリー響等オーケストラのゲスト首席として出演。また、幅広いジャンルのレコーディングにも参加。日本クラシック音楽コンクール全国大会審査員。



双紙 正哉
(2nd ヴァイオリン)
Masaya Soshi

北九州市出身。桐朋学園大学卒業。篠崎永育、徳永二男、A.アレンコフの各氏に師事。大学在学中より広島交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団のゲストコンサートマスターを務める。95年、東京交響楽団のアシスタント・コンサートマスターに就任。98年退団後はソロ、室内楽を中心に活躍。ストリングスカルテット ARCOメンバー。2004年北九州市民文化奨励賞受賞。2005年より東京都交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者。



奥泉 貴圭
(チェロ)
Takatoshi Okuzumi

札幌出身。東京芸術大学附属音楽高等学校を卒業後、ドイツ・トロツィンゲン音楽大学を経て、2007年より2年間バイエルン国立歌劇場の契約団員として研鑽を積み、2006年度文化庁在外研修員。1998年札幌ジュニアチェロコンクール優秀賞、2004年ビバホールチェロコンクール2位。JTが育てるアンサンブルシリーズ、小澤征爾氏率いるスイス・インターナショナルアカデミー、小澤征爾音楽塾オーケストラ、サイトウキネン室内楽勉強会、水戸室内管弦楽団、紀尾井シムフォニエッタ、東京春音楽祭等に参加。2009年に帰国後、2016年まで上野学園大学講師。現在はソロ、オーケストラ客演首席、室内楽、レコーディング、トリオAXIS(弦楽三重奏)として、福井ハーモニーホールのレジデントトリオとして活動。これまでに上原与四郎、河野文昭、原田禎夫、イフ・サバリーの各氏に師事。



村井 俊朗
(2nd ヴァイオリン)
Toshiro Murai

堀川高校音楽科分校(現堀川音楽高校)、桐朋学園大学を経てウィーン国立音楽大学にて研鑽を積み、帰国後、フリーランス奏者として神奈川県、東京フィル、東京シティフィル、仙台フィルなど、日本の主要オーケストラにて客演コンサートマスターとして出演する一方、室内楽やレコーディングの分野でも活動している。



森山 涼介
(チェロ)
Ryouyuke Moriyama

愛知県豊田市に生まれる。東京芸術大学を経て、同大学院修士課程修了。在学中、藝大フィルハーモニアと共演。大学卒業時には、同声会賞を受賞し、記念演奏会に出演。第8回ビバホールチェロコンクール特別賞(井上賞)、原村室内楽セミナーにて「緑の風奨励賞」、「ハイドン賞」を受賞。豊田市民文化振興財団文化新人賞受賞。故久保田顕、林良一、林俊昭、北本秀樹、山崎伸子の各氏に師事。2016年10月より一年間、アフィニス文化財団海外研修員としてドイツ ミュンヘンへ留学し、バイエルン国立歌劇場管弦楽団ソロ・チェロ奏者イヴ・サヴァリ氏のもと研鑽を積み、現在、東京都交響楽団チェロ奏者。チェロアンサンブルQuartet Exploceメンバー。



桜田 悟
(2nd ヴァイオリン)
Satoru Sakurada

4歳よりヴァイオリンを始める。小学6年から3年間千葉県少年少女オーケストラ在籍。2008年東京音楽大学入学。大学在学中にリチャード・ディーキン氏の公開レッスン、マーク・ラミス氏のマスタークラスを受講。京都国際音楽学生フェスティバル2011参加。Strings Chamber Unit the Bistro Wのメンバーとして、第2回京次ホール弦楽四重奏コンクール優勝、及びハイドン賞、聴衆賞受賞。第6回夢科音楽コンクール室内楽部門最高位(1位なしの2位)。プロジェクトQ第12.13章参加。これまでにヴァイオリンを脇野真樹、景山誠治の各氏に、室内楽を崎谷直人に師事。現在、神奈川県フィルハーモニー管弦楽団ヴァイオリン奏者。



弘田 徹
(チェロ)
Toru Hirota

1997年東京芸術大学卒業。在学中に学内オーディションに合格し、P.デイチンバイ指揮、芸大オーケストラと協奏曲を共演。同大学同声会主催による卒業演奏会に出演。東京文化会館にてM.ロストボロヴィッチに師事。1998年新日本フィルハーモニー交響楽団に入団。1999年アフィニス夏の音楽祭に参加。2004年新日本フィルとBARGIEL作曲「Adagio」を共演。新日本フィル奏員による弦楽五重奏(アンサンブル錦)を立ち上げ、長野県飯田市で4日間 10公演を実施、好評を博す。現在も活動中。この他にもスタジオレコーディングにも多数参加。これまでに馬場省一、河野文昭の各氏に師事。



生野 正樹
(ヴァイオリン)
Masaki Syouno

1978年大分県出身。14歳よりヴァイオリンを始め、大分県立芸術緑丘高校を経て、洗足学園音楽大学を首席で卒業、同大学院修了。内田博、岡田伸夫の各氏に師事。ザルツブルク・モーツァルト国際室内楽コンクールにて第2位入賞。日本演奏連盟のオーディションに合格。九州交響楽団と共演。ソロアルバムを三枚、四枚組BOXCD「ノスタルジック・メロディーズ」をWanar Music Japanより発売。これまでに東京フィル、東京シティフィル、神奈川県フィル、広島交響楽団、山形交響楽団、大阪フィル、仙台フィルなど全国の主要オーケストラに客演首席として参加。2016年は活動を一時休止しドイツへ留学。2019年天皇陛下即位祝賀式典のオーケストラにてソロヴァイオリン奏者を務めた。現在はオーケストラへの客演を中心に室内楽、ソロ活動、また、葉加瀬太郎ツアーや様々なジャンルのレコーディングに参加。トリオAXIS、第21弦楽四重奏団、RENTARO室内オーケストラ九州ソロ首席奏者。



米長 幸一
(コントラバス)
Kouichi Yonenaga

10歳よりコントラバスを始め、堤俊作氏に師事。桐朋学園大学卒、研究科修了。在学中に池松宏、ゲーリー・カー、ライナー・ツェベリッツの各氏に指導を受ける。2000年日本演奏家協会コンクール弦楽部の第1位。2001年より神奈川県フィルハーモニー管弦楽団首席コントラバス奏者を務める。武蔵野音楽大学講師。